

## 微分法の方程式への応用

$x > 0$  において, 関数  $f(x)$ ,  $g(x)$ ,  $h(x)$  を

$$f(x) = e^x - x^e, \quad g(x) = e^{x-1}, \quad h(x) = x^{e-1}$$

で定める. すべての自然数  $n$  に対して  $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^n}{e^x} = 0$  であること, および  $2 < e < 3$  であることを用いてよい.

- (1)  $1 < x < e$  のとき,  $\log g(x) < \log h(x)$  であることを示せ.
- (2)  $f(x)$  の増減を調べて極値を求めよ.
- (3) 極限  $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x)$  を求めよ.
- (4)  $k$  を定数とする. 方程式  $f(x) = k$  の異なる実数解の個数を求めよ.

(21 名古屋工大 後 1)

【答】

- (1) 略
- (2) 極大値  $e - 1$  ( $x = 1$ ), 極小値  $0$  ( $x = e$ )
- (3)  $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \infty$

(4)

$k$	...	0	...	1	...	$e - 1$	...
個数	0	1	2	2	3	2	1

【解答】

- (1)  $F(x) = \log h(x) - \log g(x)$  ( $1 < x < e$ ) とおく.

$$\begin{aligned} F(x) &= \log x^{e-1} - \log e^{x-1} \\ &= (e-1)\log x - (x-1) \end{aligned}$$

であり

$$F'(x) = \frac{e-1}{x} - 1 = \frac{e-1-x}{x}$$

より, 増減は右ようになる.

 $1 < x < e$  のとき,  $F(x) > 0$ , すなわち

$$\log g(x) < \log h(x)$$

…… (証明終わり)

である.

- (2)  $f(x) = e^x - x^e$  ( $x > 0$ ) のとき

$$f'(x) = e^x - ex^{e-1} = e(e^{x-1} - x^{e-1}) = e\{g(x) - h(x)\}$$

である. (1) も考慮すると

$$\begin{cases} 0 < x < 1 \text{ のとき, } & F(x) < 0 \text{ であり } \log g(x) > \log h(x) & \therefore g(x) > h(x) \\ 1 < x < e \text{ のとき, } & F(x) > 0 \text{ であり } \log g(x) < \log h(x) & \therefore g(x) < h(x) \\ e < x \text{ のとき, } & F(x) < 0 \text{ であり } \log g(x) > \log h(x) & \therefore g(x) > h(x) \end{cases}$$

であるから、 $f(x)$  の増減は下表のようになる。

$x$	(0)	...	1	...	$e$	...	( $\infty$ )
$f'(x)$		+	0	-	0	+	
$f(x)$		↗		↘		↗	

よって、 $f(x)$  は

$$x = 1 \text{ で 極大値 } e - 1 \quad \dots\dots(\text{答})$$

$$x = e \text{ で 極小値 } 0 \quad \dots\dots(\text{答})$$

をとる。

$$(3) \quad f(x) = e^x - x^e > e^x - x^3 \quad (\because 2 < e < 3)$$

$$= e^x \left( 1 - \frac{x^3}{e^x} \right)$$

$$\xrightarrow{(x \rightarrow \infty)} \infty \cdot (1 - 0) \quad \left( \because \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^n}{e^x} = 0 \right)$$

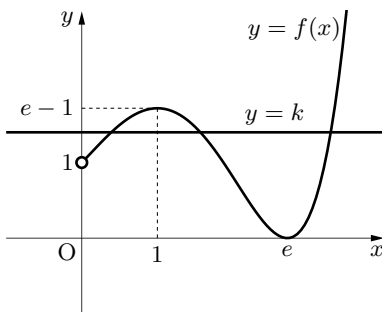
$$= \infty$$

である。よって

$$\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \infty \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。

- (4) 方程式  $f(x) = k$  の異なる実数解の個数は、曲線  $y = f(x)$  と直線  $y = k$  の共有点の個数に一致する。ここで、(2) と (3) および  $\lim_{x \rightarrow +0} f(x) = 1$  により、曲線  $y = f(x)$  は下図のようになる。



よって、実数解の個数は

$k$	...	0	...	1	...	$e - 1$	...
個数	0	1	2	2	3	2	1

$\dots\dots(\text{答})$

である。